



みんなで家庭教育！

親だからこそ伝えたい「いのち・性」の話

最近、ニュースで「性被害」「性加害」に関する報道を目にします。令和5年には性犯罪の規定が見直され、男女関わらず、同意のない（嫌と言えない状況も含む）性的な行動は、たとえパートナーであっても全て暴力だと認められる時代となりました。「性」とは、自分らしく生きる尊厳に関わることであり、親の私たちが正しい知識を学び、責任のある行動をとれるよう、子どもに伝えていくことが大切です。

令和5年度「子育てまなび講座」では、今の性教育について正しく学ぶため、「家庭で伝える性教育（助産師 山本ちひろさん）」「いのちのふれ愛教育（臨床心理士 鬼頭弘美さん）」の2講座を行いました。積極的な性教育を受けていない親世代は、「性の話を子どもにするのは恥ずかしい」「よく分からないし、自然に知るだろう」と考えがちです。しかし、今はインターネットによって、子どもでも簡単に過激な情報を目にする時代です。正しい知識があれば、誤った情報を判別することができます。危険を察知し、毅然とした態度で対応することにもつながります。園や学校で子どもが教わってくるだけではなく、親も学び、日頃の生活から意識を変えていきたいですね。何より、「生まれてきてくれてありがとう」「どんなあなたでも愛している」というメッセージは、親だからこそ伝えられる性教育。人権感覚の土台になるものです。

可児市では、令和元年度から年長児を対象に「いのちのふれ愛教育」を行っています。いのちの始まり（あかちゃんの「たね」と「たまご」）について教え、自分は命のバトンを受け継いだ大切な存在であること、そして命をつなぐための自分だけの大切な場所（プライベートゾーン）があり、自分の身を守る方法を伝えています。幼児期に正しい知識を得ること、自分も他人も大切にすると人権意識を養い、性被害から身を守ることはもちろん、興味本位や悪ふざけからうっかり加害者の立場になることも防ぐ目的があります。



11月に行った子育てまなび講座「いのちのふれ愛教育」講座では、参加した保護者の方々に、日頃ご家庭で実践している性教育や困っている事、気になる事を交流していただきました。そこで出た疑問・質問について、鬼頭先生にご回答いただきましたので、裏面もぜひお読みください。

可児市では、来年度も保護者向けの子育てまなび講座「いのち・性に関する講座」を開催していきます。新年度に、家庭教育学級や市のHPを通してお知らせしますので、ぜひご参加ください。「いのち」の話ができる親子関係を築いていきたいですね。



《親子で読みたい性教育の本 ・ 性について学べる web サイト》

絵本や動画から、子どもに伝えやすい言葉を知るのもおすすめです。直接子どもに話にくいという人は、本を薦めたり、信用できるwebサイトを伝えたりするのも、良い方法ですよ。

- ・「いいタッチわるいタッチ だいじょうぶの絵本」 安藤由紀〔著〕 復刊ドットコム
- ・「とにかくさげんでにげるんだ わるい人から身をまもる本」 ベティー・ボガホルド〔作〕安藤由紀〔訳〕岩崎書店
- ・「わたしのはなし」 山本直英・和歌山静子〔作〕 童心社
- ・「おちんちんのえほん」 山本直英〔文〕佐藤真紀子〔絵〕 ポプラ社
- ・「赤ちゃんはどこからくるの？親子で学ぶのはじめての性教育」 のじまなみ〔著〕 幻冬舎
- ・「知ってる？女の子のカラダ ポップコーン天使」 手丸かのこ〔漫画〕 山本直英〔監修・解説〕 子どもの未来社
- ・「知ってる？おちんちんのフシギ おれたちロケット少年」 手丸かのこ〔漫画〕 金子由美子〔解説・Q&A〕 子どもの未来社
- ・「あっ！そうなんだ！性と生」 浅井春夫・安達優雅子・北山ひと美・中野久恵・星野恵〔編著〕 エイデル研究所
- ・「13歳までに伝えたい女の子の心と体のこと」「13歳までに伝えたい男の子の心と体のこと」 やまがたてるえ〔著〕 かんき出版
- ・「親子で考えるから楽しい！世界で学ばれている性教育」 上村彰子〔著〕 田代美江子〔監修〕 講談社
- ・動画「紅茶の同意」「ミラクルオブラيف」
- ・中高生向け 性教育のweb サイト「セイシル」
- ・性教育 YouTuber シオリーヌ（助産師 大貫詩織さんの動画）





いろいろな質問をありがとうございました。もうすでに様々な実践をされている素晴らしいご家庭もたくさんありました。ぜひ、それぞれのご家庭での話を周りの方に伝えていただけるとよいと思います。

Q 父親にも理解してほしいのですが、どのように伝えとよいでしょうか。夫と性に関する認識が違う気がします。

A 確かに、母親からすると男の子の性教育は父親からやってもらいたいものですね。性教育を「人が生きていく上で大切な教育」というなら、毎日の中で色々と教えないければならないこと、伝えなければならぬことがいっぱいあると思います。性感染症や受精について教えることも性教育。だけど、「あなたのことが大好き」と伝えることも、危険な人から身を守ることも、体（プライベートゾーンを含む）の洗い方を教えることも性教育です。そう考えると、男性もまんざらやっていないわけではないと思います。

- ・うちは父親の参加が少ないと思っているお母さん。人が生きていく上で必要なことを教えられるって素敵なことだと思います。子どもの純粋な気持ちにきちんと向き合える親の方が得なことだと思いますよ。
- ・シングルの方で、これはどうしても自分では無理と思うことは、信頼できる方をお願いするのも手です。「いのちのふれ愛教育」でも伝えていきますし、入学してからは、先生や保健の先生に協力を求めてもよいと思います。

Q いつまで異性の兄弟とお風呂に入ってもいいですか？

A 入浴については、よくある質問です。兄弟姉妹で入浴してもらうと親としては楽ですね。家庭の事情にもよるので「この年齢でやめましょう」とはなかなか言えませんが、プライベートゾーンは「見ない・見せない・触らない・触らせない」ことが基本なので、人と一緒に入浴する場合は「座って洗うといいね」と伝えてあげるとよいかもしれません。

- ・上の子が下の子の身体を洗ってあげる場合ですが、人の身体を触る時には声かけが必要です。「『身体洗うよ～、いい？』と伝えてあげてね」と教えるのもよいと思います。これは親子でも必要な事です。この声かけは「私はあなたのことを大切にしているよ」という意味が含まれています。

Q 授乳中ですが、上の子の前で隠した方がいいですか？

A “おっぱい”には赤ちゃんの生命を維持していくという役目があります。外出先では見せない工夫がいろいろありますが、家庭内では兄弟に「いのち」の性教育をするチャンスでもあります。ごくごく自然に、「赤ちゃんにお乳をあげる」ということでよいと思います。

Q 出産について恐怖感があるみたいです。

A 親が「あなたに出会えたことはとても嬉しいこと。ありがとう」と伝えていけば、恐怖は軽減していくと思います。出産の時は「不安」「怖さ」もありますが、「生まれてくる赤ちゃんがどんな顔をしているのかな」「早く会いたいな」というポジティブな気持ちもありましたよね。だからあの痛みを乗り越えて出産できたのだと思います。

Q 何歳まで男の子を女性用トイレに連れて入ってもよいでしょうか。一人で男性用を利用する時の注意点は？

A 外出時のトイレ問題は避けて通れないですね。それこそ、男の子は父親の出番ですね、男性用トイレに防犯ベルがあるとか無いとか。無い場合は、大きな声を出すなど危険な事に遭遇した時の逃げ方を教えておきましょう。我が子が自分で逃げる力がまだ育っていないと思えば、命より大事なものはありません。多機能トイレが無ければ、女性用トイレを使うこともありだと思います。

- ・男の子が自分で男性用トイレに行くと言った場合は、入口で待っていてあげてもよいと思います。学童期になると学校のトイレが男女別ですので、男性用トイレに入るとお子さんが増えると思います。

Q 男の子、女の子でうんちの時のお尻の拭き方の注意点はありますか？

A 女性は前から拭くことが基本ですが、男性は特に決まりはありません。清潔にしておくことは基本です。

Q 小さい頃からマスターベーションにつながるような行為が見られ、気になっています。

A 子どもの自慰については、性的な意味はありません。たまたま性器を触ったら気持ち良かったからまた触ってみよう、退屈だから無意識に押し付けてみよう、など癖の範囲と考えてもよいと思います。男の子よりは女の子に多く、多くの子どもは消失していきます。

- ・それをしてダメと叱るより、違うことに興味をそらしてみてもよいと思います。人前や遊びの途中で幼児自慰が出てしまうのであれば、「布団の中でどうかな」などの声かけで大丈夫だと思います。消失していくものだとことを念頭に、焦らずに。

Q 体毛について、子どもにどう教えたらいいですか？

A 「大人になった証だよ」で十分だと思います。大人になるにつれ体は変化していくことで、恥ずかしいことでもいやらしいことでもなく、自然に誰にでも起きることだよ、と伝えてはどうでしょうか。

Q いつまで母親の胸を触らせてもいいのでしょうか。

A これもよくある質問です。母親の胸が安定剤なのでしょうね。眠る時に触りながら…という子もいますが、どんな時に触りますか？触られることで気分が良くないのであれば、すぐにでもやめさせる努力が必要です。泣きわめいても「大事大事」と伝え、絶対に触らせない。違う遊びや興味のあるものに目先を替えましょう。

- ・そうでなければ、年少までにはやめられるとよいと思います。子どもも理解が進んでくれば、軽減はしていきます。



入園、入学、進級…と、新しいステージが近づいてきました。保護者のみなさんにとっても、期待と不安が入り混じる時期ですね。不安や焦りが強くなると、子どもへの要求も厳しくなりがちです。最近いらいらするなあと思ったら、大きく深呼吸！子どもの頑張る力は、お母さんお父さんの笑顔から生まれます。お子さんの良さをたくさん伝えてあげてくださいね。親があのままの自分を信じてくれているという思いは、何よりの心の栄養です。笑顔の花を咲かせましょう♪「子育ては親育ち！」

